



焼津市の通級指導教室(ことばの教室・まなびの教室)の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。

「よい発音は食事の時間から」

通級している児童の保護者の方とは、指導終了後には必ずその日の指導内容・児童のあらわれ・成果と課題等について話をします。「ことばの教室」担当として、発音に課題のある児童の保護者の方とのやりとりを紹介します。

※ 荒:荒井 保:保護者

～発音に課題のある A 児～



荒) 食事の時間もいい訓練になるんだよ。

保) …(びっくりした顔)

荒) 口の周りの筋肉を鍛えるために、固いものや太いもの、大きいものをしっかり噛んでこなすというのがいいんだよ。舌の動きの訓練にもなるし。

保) 今まで私は、食べやすいように小さく細かく刻んで食卓に出していました。

荒) これからは、自分で噛み切る、砕く、こなすことができるように練習していこう。

※ちなみに彼女は 1 年生です。在籍する学級の担任に給食の様子をうかがったら、やはり食べられないものが多く、給食の時間は苦勞しているとのことでした。

～発音に課題のある B 児～



荒) 食事の時間もいい訓練になるんだよ。

保) …(びっくりした顔)

荒) 「噛む」ということが、舌や口の動きをよくするんだよ。

保) この子は、よく噛まないで水物で流し込んでいるようなんです。

荒) これからは、食事中は汁物だけにして、自分で噛みこなして飲み込むことの練習をしよう。

～発音に課題のある C 児～



荒) キャンディをなめたり、ガムを噛んだりすることが苦手じゃない?

保) そうなんです。小さい頃から、好きじゃなかったんです。

荒) (虫歯も心配だから食べなくてもいいんだけど。)たぶん舌の使い方や口の使い方がうまくないから上手に食べられなくてあんまり食べようとしなかったんだと思うよ。

保) …(そういうこともあるのか!という顔)

荒) 固いもの、太いもの、大きいものなど、いろいろな物を食べ慣れるようにしていこう。

～発音に課題のある D 児～



- 荒) Dさんは、食事の時に口を閉じて中が見えないように、
それからクチャクチャ音をさせないように食べている？
- 保) それができないんです。
- 荒) 口を閉じて食事をするというのは、口の周りの筋肉を鍛えるのいいんだよ。
1日三回の食事の時間があるから、繰り返すといい訓練になるよ。

このように、発音の課題が残っている児童には、同じ年頃の児童が自然にできるようになってきたことが苦手なままであったり、独特な方法を身につけてしまったりしていることが多いように感じられます。

「ことばの教室」では、そこでしかできない訓練もしますが、日々の生活の中で繰り返し取り組みたいことも数多く提案させてもらっています。

「ことばの教室」に通えば直る、よくしてもらえと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、そうではありません。担当者にはできることはそのお手伝いであって、直したりよくしたりしていくのは、子ども自身です。